（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	KIZUNA 武蔵野			
○保護者評価実施期間	2025年　3月　22日		～	2025年 4月 8日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	36	（回答者数）	32
○従業者評価実施期間	2025年　3月　22日		～	2025年 4月 8日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　4月　12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童指導員、保育士、児童福祉事業経験5年以上の職員に加え、心理士、言語聴覚士、理学療法士・作業療法士といった専門職員が常勤で療育を行なっている。	・専門職員については非常勤職員も積極的に配置し、常勤職員の公休日にも質が落ちないように工夫している。 ・児童発達支援の児童に対しては概ね専門的支援実施計画を作成し、専門職員が専門的支援を実施している。	・より感覚分野（前庭覚・固有覚・触覚）の専門性を活かしたプログラムを実施していけるように、研修や日々の会議等を行ない、専門性を高めていきたい。
2	・1クラス3-4名の小集団で療育を行なっているため、一人ひとりのお子さんの課題に沿って、専門的に支援を行なう事ができている。	・保護者からの依頼や相談を可能な限りプログラムに取り入れている。 ・可能な限り、年齢や課題の似た児童をクラス編成する事で、プログラムの中でそれぞれのお子さんの成長に繋がるように工夫している。	・児童発達支援および放課後等デイサービスの多機能型で実施しており、毎年新年度にクラスの変更があるため、早めのクラス編成を行うことで、より課題の近いお子さんのクラスをつくり、お子さんの成長に繋がるようにするとともに、保護者の要望にもできるだけ応えていきたい。
3	・請求業務を外部委託することにより、その分職員が現場に集中できている。	・委託業者と都度連携を取ることで、請求業務に職員が無駄な時間を取られることのないように工夫している。	・業務ソフトを年度内に導入し、更なる業務効率を図ることで、療育の時間に充てていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎を行なっていないため、保護者の仕事の都合や家庭の事情等で、通所を断念される方もいらっしゃる。	・送迎はないが、その分職員が現場に集中できていたり、保護者の方が活動の様子を見る事ができるため、より安心感を持ってお子様を預ける事ができる。また土日祝日も支援を提供している。	・保護者の方々とのフィードバックをより丁寧に行なっていく事で、送迎がない事のデメリットを感じないよう工夫していく。
2	・1クラス3-4名の児童に対して、ほぼ同数の職員が配置され、手厚い療育を行なっているが、支援時間が1時間と短いため、できる事が限られてしまう。	・支援時間は1時間ではあるが、前後の身支度等の時間を考慮すると、実質は45分程度の支援時間となってしまう。	・メインのプログラム実施時間は45分程度だが、身支度等身辺自立に関わる動作習得も行い、来所している時間すべて療育である意識を強く持って受け入れを行っていく。 ・短い時間でも満足して頂けるように、より専門性の高いプログラムを取り入れていく。 ・お子様の満足感も担保するために、楽しんで参加できる活動もバランスよく行なっていきたい。
3	・クールダウンのスペースが訓練室にない。	・建物の構造的な問題が大きいが、パーテーションなどを使用した場合も安全性の確保などに課題がある。	・構造上の問題のため増設する事は難しいが、パーテーション等の使用方法や購入を検討する。 ・面談室や待合室を状況に応じて活用する。